

# 施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 漁業振興の促進	② 施策番号	3431
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 漁業の振興		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	漁業関係者、漁業協同組合などの関係団体
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	漁業関係者、漁業協同組合など関係団体とより連携を図り、つくり育てる漁場づくりや地産地消、都市型漁業を推進し、漁業振興を促進する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	大阪湾の漁業生産力を有効に活用した生産性の高い都市型漁業を育成するため、生産基盤の整備や資源管理型漁業が積極的に推進されている。

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 漁業協同組合員数 計算式:	人	岡田浦・樽井漁業協同組合員数により漁業振興の進展が一定わかるため。
② 養殖アナゴの養殖数 計算式:	匹	産官学連携まち・海・里山活性化推進事業(水産振興)による養殖アナゴの養殖数によりつくり育てる漁場づくりの進展が一定わかるため。
③ 年間の地曳網・釣堀来客数 計算式:		岡田・樽井漁港で行われている地曳網・釣堀への来客数により都市型漁業(観光漁業)の進展が一定わかるため。

指標名	単位	実績					目標		備考
		H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標			
① 漁業協同組合員数	人	目標値						123	
		実績値	119	120	122	—	—		
		達成率							
② 養殖アナゴの養殖数	匹	目標値						15,000	
		実績値	2,000	5,000	7,000	—	—		
		達成率							
③ 年間の地曳網・釣堀来客数	人	目標値						17,000	
		実績値	17,424	18,083	15,747	—	—		
		達成率							

### [3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方針	
1 産官学まち・海・里山活性化及び創生事業(水産振興)	養殖アナゴの養殖数	匹	5,000	7,000	10,000	14,023	12,825	11,135	A	ウ	◎
2 漁港維持管理事業	年間利用者数	人	9,583	10,612	10,612	2,764	2,142	2,455	A	ア	○
3 水産振興事業	組合員数	人	120	122	122	2,180	1,954	1,947	A	ア	
4											
5											
6											
7											
8											
計	3					18,967	16,921	15,537			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	漁業協同組合など関係団体とより連携を図り、つくり育てる漁場づくりや地産地消、都市型漁業(観光漁業)を推進することは、漁業が盛んになることにつながり、上位施策である漁業の振興に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	漁業協同組合員の人数/地曳網・釣堀への来客数は横ばい状態であるが、養殖アナゴの養殖数は増えており、一定つくり育てる漁場づくり、都市型漁業(観光漁業)の進展具合が読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	漁業関係者、漁業協同組合などの関係団体と連携しながら、役割分担を行っており適切である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	事務事業の内容は施策に適切しており、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	本市のつくり育てる漁場づくりや地産地消、都市型漁業(観光漁業)による漁業振興の促進を図っていくために、これらの事業は重点化すべきと考える。

### 4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	漁業後継者不足、漁獲量の減少。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	つくり育てる漁場づくりにつながる、産官学まち・海・里山活性化推進事業(水産振興)による泉南アナゴの養殖事業が確立されるよう、取組み主体である関係団体等と連携しながら、養殖事業の経営計画の策定、市場出荷を進めていく。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	りんくう公園運営者、両漁業協同組合と連携し、地曳網・釣堀などの都市型漁業(観光漁業)を進めることにより、漁業振興を図る。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	—

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	育てる漁場づくりへの取組開始により、施策達成に向けた事業展開が適切に行われている。 関係団体等と連携し、事業としての確立・定着へ向けた取組を引き続き進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある